

東松島市図書館

震災の記録を公開

語り継ぎ防災教育に生かす

東松島市図書館は市内で1千人以上が犠牲になった東日本大震災を風化させず防災教育に生かしてもらおうと、市民の体験談や写真を集めた記録の公開を15日から始めた。体験談はインタビュの模様を映像化または文章化して20人分を先行公開。ホームページ(<http://www.lib-city-hm.jp/lib/2012ICT/shinsai2012.html>)では要約版、館内では完全版の公開となり、年度内にすべての記録が見られるようにする。

市民の体験談の記録保存は、市図書館が公益財団法人図書館振興財団のデジタル化助成金(759万円)を受けて実施したICT地域の絆保存プロジェクト「東日本大震災を語り継ぐ」事業。昨年6

月から職員4人が当時の小学生を含む市民約90人を取材して体験談を映像に収めたほか、市民などから震災関連写真2千枚以上を収集し、先月からホームページ上で試験公開してきた。

浜で一命を取り留めた壮絶な津波の記憶や、全国の支援に感謝を告げるために取り組んだ文化活動、生活再建に向けた強い意思などが語られている。映像は

ホームページでは1人15分の要約版、館内に準備したタブレット情報端末10台では完全版を視聴できる。取材は現在も行っており、編集し次第、随時公開本数を増やしていくほか、市内各地で記録した伝統文化や閉校した学校の伝統行事なども見られるようになる。市図書館は「一生の資料である記憶は消える歴史。震災を風化させないために体験談を中心に記録した。全国から支援に来てくれた人にも被災地を忘れない」と思いを込めた。

紙など17紙から同市関連の新聞記事3千件以上を集め、見出しで検索できる目録データも作成。これ以外にも、避難所や仮設住宅団地内で自主発行され、役目を終えれば廃棄されがちな情報紙やチラシを終えれば廃棄されがちな情報紙やチラシ

シ、学校だよりなどの保存に努めた。15日の定例記者会見で阿部秀保市長は「想定を超える被害のあった震災を後世に伝える」といけ。図書館が記録を担当すること意義がある」と話した。



図書館ホームページのほか、館内のタブレット端末で閲覧ができるようになった

また、事業では地元紙、全国

体験談は野蒜や大曲